

## 台風26号の災害対応について。

緑川剛司

私は、茂原市建設業組合に所属する緑川組の緑川と申します。以前は、県庁職員として災害対応を行っていましたが、現在は家を継ぎまして、請負者側で災害対応を行っております。10月16日の超大型台風26号は日本列島に大きな被害をもたらしました。茂原市では一宮川から溢れた水で浸水被害が多発し、床上・床下浸水1000棟以上と凄いものであります。(YouTubeで【茂原市水害台風26号】で検索すれば、結構な再生回数、じえつじえつ。)



一宮川の堤防を越流



冠水する茂原市街地

茂原市の被害状況(12月19日17時現在)		地区名
種類	件数	
床上浸水	563棟	茂原、八千代、早野、長溝水、中部、緑町、八幡原、新小野など ※現在、調査中
床下浸水	651棟	茂原、八千代、早野、長溝水、中部、緑町、八幡原、新小野など ※現在、調査中
半壊	6棟	上木田、早野新田、本納、緑町、茂原、下永吉
一部損壊	34棟	南吉田、茂原、上木田、下永吉など
道路損壊	13カ所	山崎、石神、綱島、桂、上木田、三ヶ谷など
道路冠水	47カ所	八千代、中部、中の島、早野、大倉、高野、茂原、本納、法昌など
がけ崩れ	10カ所	庄吉、綱島、真名、上木田、緑ヶ丘、大沢など
倒木	37カ所	早野、下永吉、緑ヶ丘、弓張など
農林業	林道、ため池、水路、食用菜花、花栽培ハウス等 約2,436万円	
商工業	現在、調査中	
その他	浸水被害:図書館・中央公民館・市民会館・下水道処理場沈砂池	
(公共施設)	一部破損:東部台文化会館・小中学校・幼稚園	

茂原市のホームページより

倒木処理や内水排除のポンプ設置などの災害応急業務がひと段落し、水が徐々に引き始めた、翌17日の昼ごろ、組合に、収集運搬作業の協力の依頼がありました。一宮川から溢れた水で浸水被害が多発した八千代、早野地区などでは、家具やたたみ、ふとんや濡れた本類など、災害ゴミがあふれているとのことでした。各社、作業員4名とダンプを2台ずつ出してほしいとの事です。床上・床下浸水で住民は避難生活を強いられているので、早急に対

応してほしいとのことでありました。会員企業の中には、床上浸水にあつてしまい、パソコンも使えない会社もありましたが、一致団結して災害ゴミの収集運搬を行う事となりました。

翌18日から災害ゴミの収集運搬作業が始まりました。しかし、100棟以上の家屋から一斉に濡れた本や、たたみなどが出てきますので、想像以上のゴミの量であります。現場から帰ってきた作業員に声をかけると、「いや〜気持ちが折れますよ〜。やってもやつても、次から次へとゴミが増えていきますよ〜。終わりが見えないうつすよ。」「これひよつとして、終わらないんじゃないっすか……」。案の定、来週もお願いしますとの連絡……。この作業は1週間続く事になり、組合で延べ人数280人、ダンプ145台を費やした。「うう現場が止まったままだ……。」「作業員を引き抜かれて、現場監督は工期を心配してソワソワしているが、どうしようもない。



ゴミ収集状況



茂原公民館前に集合



浸水被害にあった住宅前にゴミ

また、19日には、茂原市の課長から直接、携帯に電話がありました。「何袋でもいいから、土のうを作ってくれないか、出来れば500袋くらい……」。台風26号の後、すぐさま、台風27号が発生し、この接近に備えて土のうの配布を行っているとのこと。

課長から直接頼まれてしまえば、答えは「yesかハイ」です。そして21日月曜日に500袋納入、災害ゴミの片付けと並行して土のうを作ることにしました。そんな中、土のうを届けて帰ってきた作業員が「市役所にテレビが来てますよっ。うちの緑色のダンブが写ったかもしれません・・・。(実際は映らなかった)」「よくし土のうはもつと作れ・・・。」と張り切りましたが、テレビの放映を機に住民が大勢駆けつけて車の列ができるほどになってしまい、市役所の職員も自ら土のうづくりを行いました。(結局、市役所にて土のうは1万6千袋配布されました)

今回の水害で発注者の方々も大変だったようです。被災された、御宅を訪問する職員の姿はあちこちで見ましたし、パトロールの時もずいぶんすれ違いました、また、普段行わない消毒散布も職員が自ら行っていましたし、心無い人からの苦情の電話に寝ずに対応していた人や、幹部自らが陣頭指揮に当たり、自宅に帰ってなかったとも聞きました。何年か前に難しい現場で、一緒に苦労した監督員の方や、普段から顔見知りの人たちの頑張っている姿を見て、我々も頑張らなくては、みんなが一致団結して、地元を守るんだという気持ちになりました。

また、23日の昼ごろ、今度は長生土木事務所からの依頼です。26号の被害も冷めやまない頃、台風27号が関東を直撃の予想が出されました。「出来る限りの対策を行う」という方針のもと、各社、作業員を出せるだけ出して、阿久川の河積阻害している竹を伐採してくれとのこと。「ひええ。断わるわけにも行かない・・・。」

結局 24 日・25 日の 2 日間で長生支部の建設業者が出動して延べ人数 260 人にて伐採を行いました。2 日間で 260 人・・・まあ、よく集まったなあ・・・という感じです。

20 年前は作業員はたくさんいたが、最近では減らさざるを得ない状況です・・・。20 年前は、現場代理人 2 人で作業員が 10 人だった会社が、今では営業 2 人現場代理人 4 人作業員 4 人で重機は全てリースという体制に変わってきています。これは、近年の入札制度の改善により総合評価や現場代理人の専任制の厳格化がもたらしています。このこと自体を悪く言うつもりはないですが、災害対応をする上では好ましくない体制なのではないでしょうか？

地域の建設業者の役割は、災害対応だけではなく、経済効果や雇用創出とするならば、書類や営業よりも施工に人員を費やす体制の方が良いのではないかとふと考えました。

台風 27 号による被害はそれほどなく、河川の氾濫はありませんでしたが、災害対応もひと段落した翌日の朝、長生土木の所長さんから直接、支部長、副支部長にお礼にお電話がありました。また、何人もの職員の方々から、顔を合わせるたびに「ありがとうございます」「ご苦労様でした」と声を掛けられました。

災害対応において自分は発注者側から、請負者側が変わって、早いもので 8 年経ちますが、自分は現役時代「ありがとう」ってきちんと言えてたかなあと考えながら、ペンを置かしてもらいます。